

各 位

2023年12月28日
株式会社インプレス

**33年の応援に感謝！ 自作PC専門誌『DOS/V POWER REPORT』、
最終号となる『2024年冬号』を12月28日（木）に発売。
電子書籍のバックナンバー最大70%オフキャンペーンも実施**

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋隆志）は、『DOS/V POWER REPORT 2024年春号』を2023年12月28日に発売いたします。また、直販サイト「インプレスブックス」にてバックナンバーの電子書籍を最大70%オフで販売します。



■すべての自作PCファンに感謝を込めて。総力特集『新旧パーツ100選』を掲載

33年の長きにわたり、PCやPCパーツの機能や性能を深掘りする記事を発信し続けてきた『DOS/V POWER REPORT』が、2024年冬号をもちまして休刊します。同号では自作PC専門誌として長年ご愛読いただいた感謝を込めて、2部構成・130ページ超の総力特集「新旧PCパーツ100選」を掲載します。

■厳選したレコメンド製品の発表と歴代パーツ名鑑の2本立て

第1部は、この冬にPCを自作する読者に向けた年末恒例の人気企画、『PCパーツ100選2024』です。CPUやマザーボード、ビデオカードやSSDなど、主要なPCパーツ8ジャンルを網羅した上で、それぞれの最新トレンドを分析。製品を選ぶにあたって知っておくべきチェックポイントが分かります。さらに、編集部が厳選した複数の製品を検証・比較し、その結果からこの冬買うべきイチオシ製品をゴールドレコメンドとして選定、次点をシルバーレコメンドとして、特徴を解説しました。

続く第2部は、30年を超える自作PCの歴史を豊富な資料とともに振り返る『自作PC史&極私的パーツ名鑑』です。1990年代の黎明期から現在にいたるまでの自作PCの歴史を年表形式でまとめました。当時の誌面や写真を資料として多数掲載しています。さらに、常連執筆陣による“極私的”パーツ名鑑からは、年表に載ることのない当時の空気感が伝わってきます。

■本書は以下のような方におすすめです

- ・初級、中級自作 PC ユーザー
- ・PC の購入、アップグレードを検討中の方
- ・歴戦の PC 自作ファン

■紙面イメージ

Socket AM5 | 5nmプロセス | GPU内蔵

Advanced Micro Devices
Ryzen 7 7800X3D
発売価格：66,000円前後

37mm×37mm×5mm | 最大TDP: 105W | 最大コア電圧: 1.4V | DDR5-5200/6000/6400 | PCIe 5.0 | 最大メモリ: 192GB | 最大メモリ帯域: 128GB/s | 最大メモリ遅延: 75ns | 最大メモリアクセス時間: 130ns | 最大メモリリードタイム: 130ns

8コアだから確実に“効く” ゲーム特化の最強CPU

AMDの3D V-Cacheとは、Ryzenが採用しているコア上に積層された巨大な3次元キャッシュ。ゲームの用途ではまったくと言っていいほど効果が期待できないが、ゲームに特化したフレームワークを備えている。AMDは、ハイエンドGPUのポテンシャルを最大限に引き出すべく、3D V-Cacheの基幹はRyzen 7 5800X3Dで構築されたが、これをZen 4ベースにしたRyzen 7 7800X3Dを今期の新モデルとした。

CPUのスペックが豊富でコア数の多いRyzen 9 7950X3Dの目玉だが、3D V-Cacheが搭載するコアはどれも8コアのみ、かつ7800X3Dの場合、ゲームによって3D V-Cacheのオン/オフに切り替わり、ゲームパフォーマンスが下がることもある（「グラフィック」参照）。チップレット構造というRyzenの強みがある点も、どんなゲームも確実に高くするという点においては、Ryzen 7 7800X3Dがシンプルかつ究極のアンサーなのだ。

LGA1700 | 10nmプロセス | GPU内蔵

Intel
Core i7-14700K
発売価格：70,000円前後

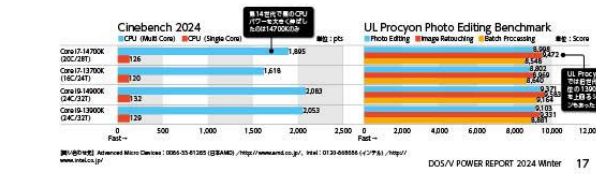
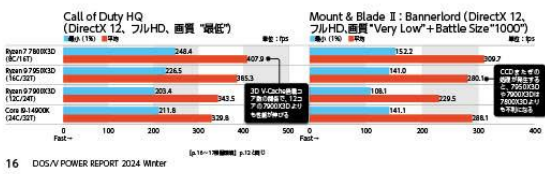
37mm×37mm×5mm | 最大TDP: 125W | 最大コア電圧: 1.4V | DDR5-5200/5600/6000 | PCIe 5.0 | 最大メモリ: 192GB | 最大メモリ帯域: 128GB/s | 最大メモリ遅延: 75ns | 最大メモリアクセス時間: 130ns | 最大メモリリードタイム: 130ns

14世代で唯一のEコア増量で 高まるマルチスレッド性能

資金を総額Coreプロセッサ（第14世代）は第13世代ほどのインパクトを及ぼす結果ではなかった。アーキテクチャから劇的なロックアップはなかった。第13世代を継承しているため、ほぼ第13世代を継承しているため、その中で唯一大きな性能向上を遂げたのがCore i7-14700Kだ。

その理由はいくつかある。Core i7-14700KよりもEコアのクラスが1層増え、1層のEコアを削減したため、Eコアはマルチスレッド処理のスケラビリティにおいてコアより有利になるため、処理の差が大きいと見て、処理によっては前世代のCore i7-13700Kにまで追いつく。第14世代のCore i7-14700Kに目を奪われる性能を誇る。

消費電力もその分増えている。Core i9-14900Kより100W以上のEコアで稼働している。CPUソケットが変更されたものの、Core i7-14700Kはメモリは増やしたが、第13世代と性能のバランスでは第14世代の量というべきに仕上がった。これがゴールドレコード更新の理由だ。



「PC パーツ 100 選 2024」ではパーツのジャンルごとにオススメの製品を選定

自作PC史

マルチコアCPUとSSDが性能を牽引

2005～2010

この時期CPUは順調に伸びてきたクロック向上路線から多コアを重視する路線に転じ、4コア～4コア以上メインストリームのCPUの標準が変化。同時にCPUユーザーの構成も今ものように多コアの時代へ。

2005年の主な出来事

- 初のデュアルコアCPU、AMD Athlon 64 X2が発売
- 物理コアを二つ載せた力強いデュアルコアIntel Pentium Dが発売
- NVIDIAからGeForce 7シリーズ、AMDからRadeon X1000シリーズが発売
- オンキヨーからPCオーディオ向けサウンドカード、SE-90PCIが発売

2006年の主な出来事

- 電力効率が優れたデュアルコアCPU、Intel Core 2 Duoが発売
- ATIがAMDに買収される
- MicrosoftからDirectX 10が発売
- ユニコ動産がサービス開始

2007年の主な出来事

- MicrosoftからUIを一新したWindows Vistaが発売される
- SSD (Solid State Drive) が自作市場に登場し始める
- HDD容量がTBに到達
- アップグレードCPU、Core 2 Quadが発売される
- USBメモリを使った高速化技術、Windows ReadyBoostが発売

2005

特許の高性能デュアルコアCPUが登場したが、当時の自作PCにはまだ馴染みなかった

最新のゲームでPCオーディオ向けサウンドカードを再び再燃させたサウンドカード、Low Profileにいうことこそ多コアAVPCでも実現された

2006

Core 2 Duoの登場により、電力効率が向上し、価格も低下した。また、ATIはAMDに買収された

最新で動くハイエンドゲームプレイを期待するユーザーは、この機会にグラフィックボード、この機会にグラフィックボードが再び登場した

2007

3Dグラフィックを駆使したゲーム（Windows Aero）を使用したOS、動作が軽快な自作PCが再び登場した

自作PCに搭載するハードウェアの進化に伴って、自作PCの性能も向上した。また、自作PCの進化に伴って、自作PCの性能も向上した

2007

デュアルコア×2の“Quad FX”でCore 2 Quadに対抗だ!

Quad FXとはデュアルコアのAthlon 64 FXを2個搭載することで4コアCPUのプラットフォームを実現するもの。Intelがコア内蔵のCore 2 Quadを発売したことに対抗するためのものだが、性能ではおぼろげ。マザーボードはこのL1N64-SLI WSが搭載されたのみで終わった。結果、AMDはRyzenシリーズまでの10年弱、絶大なCPU性能においてIntelの発展を押し続けることになった。NVIDIA 6800 SLIチップセットの発売も大きく、CPU VRAMと同等の外部ファン付メモリバンクは、最近のマザーボードからするとやや珍しく見られるかもしれない

2007

オレはどうしても美しい画面でCrysisがやりたかった

2007年に発売されたFPS [Crysis]、DirectX 10の機能もふんだんに使った当時としては画期的なグラフィックスに、ユーザーが驚かなくて済むんじゃないかとPCゲームユーザーも驚かされた。そのゲームをやるべく予算を削ぎながら高品質でプレイできるGPUとして注目されたのがGeForce 8800 GT。メモリは512MBで、ゲームによってメモリ不足は発生しなかった。4万円前後だったのが、当時の自作PCでも採用された。Crysisの発売後のグラフィックスもともなう、ゲーム内容はまあ、自ら見た、面白い。

2007

ASUSTeK Computer
L1N64-SLI WS
発売価格: 45,000円前後 (送料別)

Quad FXはデュアルコアのAthlon 64 FXを2個搭載することで4コアCPUのプラットフォームを実現するもの。Intelがコア内蔵のCore 2 Quadを発売したことに対抗するためのものだが、性能ではおぼろげ。マザーボードはこのL1N64-SLI WSが搭載されたのみで終わった。結果、AMDはRyzenシリーズまでの10年弱、絶大なCPU性能においてIntelの発展を押し続けることになった。NVIDIA 6800 SLIチップセットの発売も大きく、CPU VRAMと同等の外部ファン付メモリバンクは、最近のマザーボードからするとやや珍しく見られるかもしれない

2007

NVIDIA
GeForce 8800 GT
発売価格: 40,000円前後 (送料別)

2007年に発売されたFPS [Crysis]、DirectX 10の機能もふんだんに使った当時としては画期的なグラフィックスに、ユーザーが驚かなくて済むんじゃないかとPCゲームユーザーも驚かされた。そのゲームをやるべく予算を削ぎながら高品質でプレイできるGPUとして注目されたのがGeForce 8800 GT。メモリは512MBで、ゲームによってメモリ不足は発生しなかった。4万円前後だったのが、当時の自作PCでも採用された。Crysisの発売後のグラフィックスもともなう、ゲーム内容はまあ、自ら見た、面白い。

自作 PC の進化の過程が分かる「自作 PC 史&極私的パーツ名鑑」

■バックナンバーの電子書籍が単号なら 50%オフ、1年分セットなら最大 70%オフ

最終号の発売を記念して、直販サイト「インプレスブックス」にてバックナンバーの電子書籍を単号なら 50%オフ、1年分のセットでは最大 70%オフで販売します。セール期間は 2024 年 3 月 31 日まで。

◇電子書籍の販売ページ：

<https://book.impress.co.jp/category/pc/dosv/>

■本書の構成

- ・総力特集 第 1 部「PC パーツ 100 選 2024」
- ・総力特集 第 2 部「自作 PC 史&極私的パーツ名鑑」
- ・人気連載「最新自作計画」「マザーボード完全攻略ガイド」「高橋敏也の改造バカー台」など
- ・PC をより深く理解したい人のためのデータベース集「DOS/V DATAFile」

■書誌情報



書名：DOS/V POWER REPORT 2024 年冬号

編集：DOS/V POWER REPORT 編集部

発売日：2023 年 12 月 28 日（木）

ページ数：208 ページ

サイズ：A4 変形判

定価：2,310 円（本体 2,100 円＋税 10%）

電子書籍価格：2,310 円（本体 2,100 円＋税 10%）※インプレス直販価格

雑誌コード：06705-02

雑誌 JAN：4910 06705 0244 02100

◇Amazon の書籍情報ページ：

<https://www.amazon.co.jp/dp/B0CN6SS319/>

◇インプレスの書籍情報ページ：

<https://book.impress.co.jp/books/1123110112>

以上

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計 7,500 万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT 関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」をはじめとする企業向け IT 関連メディアなどを総合的に展開・運営する事業会社です。IT 関連出版メディア事業、およびデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

E-mail: pr-info@impress.co.jp URL: <https://www.impress.co.jp/>

※弊社はテレワーク推奨中のため電話でのお問い合わせを停止しております。メールまたは Web サイトからお問い合わせください。